

第5回 箕面市小中一貫教育推進計画検討会議 記録

【日時】

令和5年（2023年）6月5日（月） 15:30～17:00

【会場】

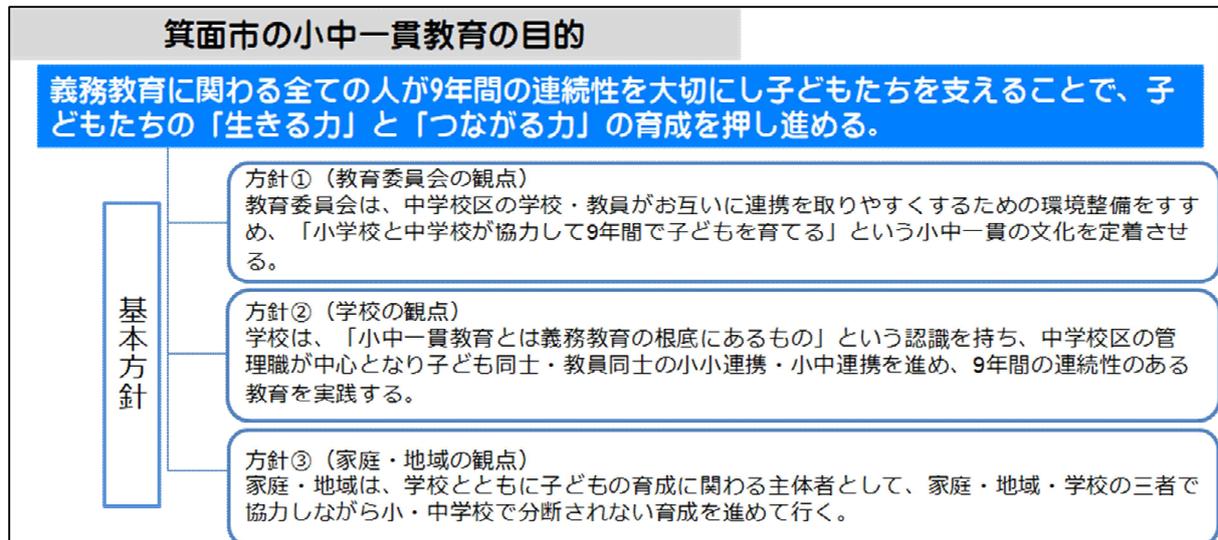
Zoom 会議

【議事概要】

● 「箕面市の小中一貫教育の目的」と「基本方針」に関する議論

前回の会議結果を踏まえ、事務局にて「箕面市の小中一貫教育の目的」と「基本方針」に関するたたき案を作成し、たたき案をもとにした議論を行った。

（事務局案）



- ・ 箕面市の小中一貫教育目的について「義務教育に関わるすべての人が」としているが、義務教育という「制度」に関わる人というのが違和感がある。伝えたい意味はわかるが、他にいい言葉がないか。
- ・ 方針①の「小中一貫の文化を定着させる」という表記について、文化という言葉が少し幅広い意味をもつので、伝わりづらいのではないか。
- ・ 方針①の「教育委員会は中学校区の教員がお互いに連携を取りやすく」という表記について、「教員」ではなく「教職員」としていただきたい。校長、事務、SCなども含めて動きやすい環境整備をしていただきたい。
- ・ 方針②では「中学校区の管理職が」とされているが、管理職と担当者でやればいいんだというように誤解を招くかもしれない。「すべての教職員が」というような表現を使うのはどうか。方針②のターゲットをすべての教職員とすることで、はっきりする部分が出るような気がする。

●計画骨子（案）について

計画のイメージを共有するため、現時点での骨子（案）をご確認いただいた。骨子（案）に対するご意見はなかった。

●具体的施策の検討について（導入）

具体的施策の検討への導入として、施設一体型・施設分離型の違いによるメリットやデメリットなどについてご意見を伺った。

- ・ 小中の交流という点では、距離の問題は大きい。施設隣接型と施設分離型の複合型の中学校区の場合、隣接している小学校とは連携しやすいが、距離のある小学校については児童を中学校に招待することもハードルが高かった。中学校の教員が小学校に出向き対応していたが、できれば児童に来てもらい中学校を体験してほしい。
- ・ 施設一体型小中一貫校で良いと思う部分は教科研究。小学校と中学校が同じ学校なので研究の軸がブレず、研究授業のテーマも、小学校・中学校の両方で大事にしてあげないといけないものになっている。それが1人の研究部長から、職員会議の場で全員におろされるので、先生方への伝わりかたが施設分離型よりも遥かに良いし、いつでも研究部長に質問に行ける環境でもある。中学校区の研究会だと各校の研究の代表が集まるので、そこに参加してない先生たちにもどこまで伝わっていくかという課題がある。
- ・ 10年前から施設一体型での小中一貫教育に関わってきたが、10年前よりも小中一貫教育が進んできているという実感がある。例えばステップアップ調査をこの間続けてきていることで9年間を見通して子どもたちの体力・学力を見ていくことができるようになった。また算面の授業の基本ができて中学校の授業がわかりやすくなったという評価もある。この10年でやってきたことは間違いじゃないと思っている。英語教育などでの連続性のある教育活動もうまくいっていると思うので、今後検討する施策としてはこれらの継続という部分に関わるのかなと思っている。これまでやってきたことをもう一度高めていくような形で盛り込んでいただけたらと思う。
- ・ 彩都は昔より児童生徒数が増えたが、規模が変わってもやることは変わらないと思っている。管理職が最初の段階でここは一貫校だということを全体に示し、先生方も一貫校としてどう取り組んでいくかということが大事であり、現在もみんなで同じ考えを持ち取り組んでいる。すべての教職員がつながりを持って子どもたちに対応していくことが大切だと思っており、それがやりやすいのは施設一体型の良さだと思っている。
- ・ 施設一体型小中一貫校は「6年生の活躍の場がない」という意見もある。一般校と比べると確かに難しいかもしれないが、彩都是一貫校である。一般校は小学校の卒業式をゴールにしているが、一貫校は小学校の卒業式をゴールにしている。6年生にも卒業式以外にも活躍の場があり、活躍の場は確保できていると思っている。
- ・ 箕面市の施設一体型小中一貫校は9年間で4年－3年－2年で区切っているが、6年－3年で区切る通常の小・中学校と比べてもリーダー経験が増える。6年生

の活躍の場がないという考えをとっぴらって、4年生が1～4年でリーダーシップを発揮するとか、施設分離型にはなかったものが、施設一体型小中一貫校の中では増えると考えたらいいと思っている。例えば、9年間全体でみて子どもたちの活躍の場が増える、5年生から生徒会学習会に参加できて、つながりを意識して学園をどうしていくかと考えることができる。これが一般の小学校で、ここまでリーダーシップがとれるかという、難しいのではないだろうか。5年生から意識して、生徒会の中でも発言することで、育ちも深まると感じており、施設一体型は施設分離型よりもプラスがあると思っている。

- ・ 施設分離型における距離の課題を解消するためには、オンラインの活用が効果的だと思う。しかし、オンライン会議だと、その会が終わったらすぐに退室となり、深い話に発展しづらい部分もある。顔を合わせる機会がある方が話は深まる。
- ・ 9年間のカリキュラム作成について、施設一体型で作ったものを施設分離型中学校区に活かさないかと思っている。

●今後の施策検討の進め方に関する有識者からのご意見

- ・ 今後の施設分離型のあり方を考えたときに管理職がどの学校でも一貫教育の取り組みについて情熱をもって話をされ、教職員も一貫教育を進めていこうという盛り上がりが出てくれば良いと思う。また教育委員会がどう一貫教育を全体に周知していくのかという点も含めて議論を行い、新しい施策を作っていければと考えている。
- ・ 課題の洗い出しは、第3回でもやったが、今回の話し合いでは、施設分離型の取り組みをどう整えるかという点が、第3回の時以上に強調された印象。今回の資料に例示された具体的な施策にも、直接的には「施設分離型対応」のような中身はないが、強くそれを意識した、直接的にそれをターゲットにしたような施策というのを、今後考えるのがベターなのかと、皆さんのご意見を聞いて考えたところ。
- ・ 一方で、今回意見が出た内容と、施策と呼ぶ物の間にはギャップもあるような気がして、気持ちの問題とか努力で何とかできる話をするのか、施策と呼ぶ以上予算化を図り、しかもそれはある意味で期間限定のものをイメージしながら考えるのかで、違いがあると思う。事務局側が、何をもって施策と呼ぶのかを今一度確認しておいた方がいい。
- ・ 今回、基本方針の中に「家庭・地域の観点」を定めたが家庭・地域の代表者の方が本会議のメンバーに加わっていない点が気になる。オブザーバー加わって適宜ご意見いただくなども検討した方がいい。

以上